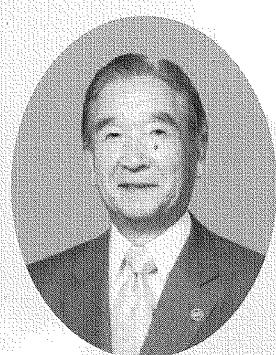




平成22年3月10日発行

〒358-0003

入間市豊岡1-15-1

豊岡高校同窓会
会報編集委員会

同窓会会報『出藍』第一号の発刊に寄す

～「心のオアシス」を求めて～

会長 木下 博

豊高同窓会会報『出藍』第一号が発行されることを、大変嬉しく思っている。成瀬校長ほか教職員各位、同窓会会報編集委員の皆さんのご努力、

ご協力に心から謝意を表したい。

私は、同窓会長の重責を担いながらその職責を果し得ず、無為に過していたが、有志のご努力によって創立九〇周年を契機に会報が発行されることは、誠に意義深く感謝に堪えない。

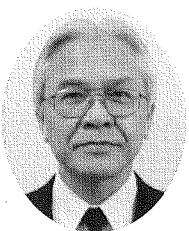
とは、多くの関係者の大変なご苦労があつたれどこそで、先人達の先見性、洞察力、実行力に尊敬の念を深くするものである。

このように、教育的環境に恵まれた地に誕生した本校は、この会報の名のとおり「出藍」の誉を胸に多くの有為の士が社会に巣立ち、すばらしい活躍をされている。二万一千人を数える同窓生は、心のどこかで常に母校を思い、級友の姿を追っているのではあるまい。社会は今大きく変化し、人々は自らの利益を追求する余り、人・地域の絆を断切り、荒んだ環境を自ら作り出しており、その中で喘いでいる。

大正九年、学校組合立豊岡農学校として産声を上げた本校が、幾多の変遷を経て現在の豊岡高等学校に発展したこ

とは、だからこそ人々には「心のオアシス」が必要であり、同窓会もその役割を担えれば嬉しい。

同窓会員は学校史の創造者であり、同窓会はその証人である。豊高が燐然として輝き続ける限り、我が同窓会もこれを支え、共に歩み続けなければならぬと思っている。



「私の夢」

～同窓生が現役生と交流する学校～

校長 成瀬 英二

学校の元気さはどこにあるでしょ

うか？言うまでもなく現役生の活躍にあります。現役生が真剣に勉強し、活発に行事・部活動に参

加し、進路希望を実現し、社会で有為な人材となっていく事にあります。学校が果たす大きな仕事であり、責任であります。

では、学校の広がりや、厚みとはどこにあるでしょうか。それは学校を支援して頂く、PTAや同窓会の方々の学校への関わりにあります。

PTAの方々からは毎年組織的計画的な活動、ご援助をして頂いています。昨年度から始めて頂いた『登校あいさつ運動』や『植栽協力による環境美化活動』等は、生徒を見守り、生徒の活動の場をより良くする取り組みとなつてお

ります。

更に、学校の教育活動に厚みやふくらみをつけて頂くのは同窓会の方々と考えます。

昨年七月には昭和二十年卒業の方により手作りの本「六十年の足跡」を寄贈して頂きました。戦時中の北海道への援農隊の活動を中心とした記録です。有志の方が当時の記憶を掘り起こし、原稿を書き、北海道を何十年ぶりかに訪れ、一つの冊子にしたもので。

それより以前の昭和十年代、豊高の野球部が大活躍をした際の話を生き生きと若い同窓生に語つてくださる方もいらっしゃいます。

また、豊友三七会の方は昨年の野球部の活躍に応援旗まで作られていた。いつも温かい応援をして下さいました。

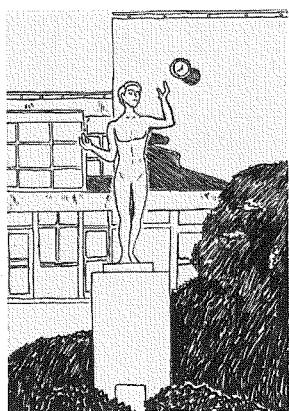
同窓生の方のこうした自發的な

活動は、学校の歴史を現役生に伝えると共に、現役生を励まし、豊岡高校の生徒である事の誇りを培つてくれます。

私の夢は、学校の中に同窓生が集う部屋があり、同窓生の方々が折にふれて学校を訪問してくださ

り、そこから互いの情報交換や同窓会活動の計画、準備をして頂くことや、自由な企画で社会生活について現役生との懇談会やミニ講演会を開いて頂いたり、部活動の指導援助や生徒の興味関心のある分野の現場に立つ先達として教えて頂いたり、更にご自身の仕事場で豊高生対象のインターンシップ体験の機会を提供して頂く等々、学校が同窓生同士、同窓生と現役生が交流する場となることです。

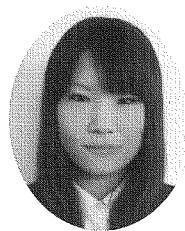
そのようにして青年期の生徒の育成に同窓会の方々がそれぞれの可能な範囲で参加してくださることで、豊岡高校の教育活動が豊かなふくらみのあるものとなり、具体的な形で伝統を次代に受け継いでいくことになると考えます。





会報『出藍』の創刊に寄せて

PTA会長 小林 守利



「私の宝物（新同窓会員として）」

前生徒会長 水村 美咲

同窓会会報『出藍』の創刊おめでとうございます。創立九〇

周年のこの年に創刊されることは、私自身も卒業生として、とても感慨深いものがあります。

同窓会会长の木下様をはじめ、ご尽力いただきましたすべての方々にPTAを代表して厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆様にとって母校の存在とはどのようなものでしょうか？ 時に母校の活躍に胸を躍らせ、また元気のない姿に「喝」を入れたくなるものでしょうか？ 年齢を重ねるほど母校への思いは強くなるのであります。ませんか？ ゼひ豊岡高校にいらしてください。心よりお待ち申し上げております。

今年体育館も新しくなりました。当時のままのもの、新しく

生まれ変わったもの、どうかご自身の目で確かめてください。そして活躍する後輩の姿を見て、声をかけてください。母校がいつも『地域からの信頼』をいつまでも「地域からの信頼」をいただけるようにお力を貸しください。

本校は創立百年に向けて歩み出しました。PTAも『朝のあいさつ運動』『校門付近の植栽』『予備校のサテライト講座』など新たな取り組みをしています。

学校は在校生、教職員、保護者、同窓生、地域の方々皆で育てていくものです。どなたが欠けても成り立ちません。いつまでも地域から愛され、期待にこたえる豊岡高校であつて欲しいと心から思います。同窓会の皆様のご健勝と更なる活躍を期待いたしました。

私たち平成二十一年度卒業生はこの度、八十九年という歴史ある豊岡高校の同窓会員になれたことを幸せに感じています。

私の豊高生活は、まさに青春そのものでした。憧れていた豊高に入学して生徒会に入り、会長を務めさせていただき、文化祭やホーリームルーム発表会、球技大会など伝統ある行事を経験しました。振り返ってみると本当に忙しい毎日でしたが、それ以上に楽しく充実しました日々でもありました。この三年間でたくさんのチャンスと試練を与えていただいたお陰で物事を考

える力や人前で話すこと、何事にも積極的に取り組めるようになつたことなど、豊高に入学する前では考えられないほど成長することが出来ました。それはいつも支えてくださいました先生、先輩、友人の

お陰だと感謝の気持ちで一杯です。

私は、そんな豊高が大好きで、誇りに思っています。この気持ちをとても幸せに感じています。

豊高の長い歴史の中には、沢山

の卒業生がいて数えきれないほど多くの思いやドラマがあり、その中には自分が居ることがとても嬉しく自分慢に思えます。これからは同窓会員になつたからこそ出来ることを探して、私の宝物である豊岡高校を見守り続けて行きたいと思います。

豊岡の思い出

二万余人の卒業生の思い出をたどる

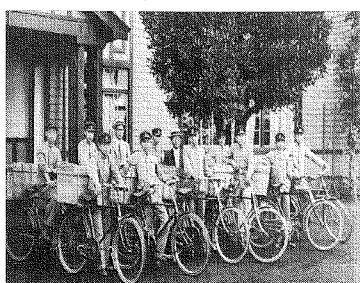
大学へ進学される生徒が多いことと思っているものです。

(昭20実卒)

「思い出」

向山辰男

校舎の裏の道を挟んで
養蚕の建物、豚や鶏を飼
育、果樹草花を育て、農
地は校外東側、麦と蔬菜
類、水田は遠く豊水橋傍
で田植え等の実習をした。



お茶の販売部(昭和11年)

積み、先生が引率。生徒
五、六人が一隊となり、
東京杉並、荻窪界隈を売
り歩いた。このキャラバ
ン隊に私も楽しく加わつ
た。

洋々の昭和十年三月、豊
岡実業学校を卒業した。
(昭10実卒)

「発展する母校に思う」

市川保一

昭和二十年三月卒業で
した。それから六十五年
も過ぎてしまいました。

長い間同窓会の監事もや

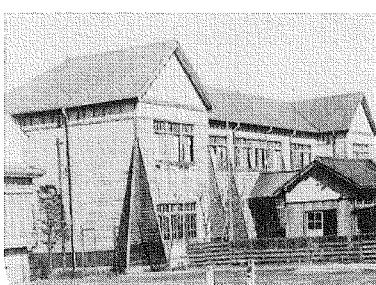
らせていただき、無事後
任の方に引き継ぎました。

平成二十一年八月二十一
九日と三十日には、毎年

行われているようですが、

三百名余り、今は八百八十
名で想像もつかない
生徒数で、校舎も木造の
校舎ではなく、非木造の立
派な校舎です。入間市駅
から登校する生徒達の元
気な姿を見ておりますと

感激してしまいます。



旧校舎

「アイン・ツバイ!」

石川 茂

小学校六年生の担任は
梅沢先生でした。先生の故郷は比企郡小川町でした。

先生は私の受検校を
豊岡実業学校に決めま
した。私は限らず他の生徒
も先生が決めました。母
の悲願は早くから私を中
等学校へ進学させたい、
上級学校へ、上の学校へ。

その当時、吾が家周辺で
生の時、学校が正に前途
木造の校舎で、生徒数も

野球が強く、県下で優
勝を争っていた。私も野
球部員だったので思い出
が多いが紙面の都合で割
愛する。校歌が制定され、
講堂が新築、第一グラン
ドが出来たのも私が五年

いう科目で、退役の配属
将校が日本軍隊の初歩を
教えた。また、商業実践
と称して製茶を自転車に
乗って製茶を自転車に

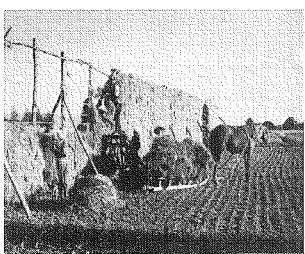
名に相応しく、生徒は全
教科を全て学ぶ、一教室
五十人、五年制である。

異色だったのは教練と

いう科目で、退役の配属
将校が日本軍隊の初歩を
教えた。また、商業実践
と称して製茶を自転車に

旧制中学校へ進学する者は皆無でした。

今でこそ埼玉西部の県立高校数は五十校以上あります。昭和十六年時点では川越市に四校、飯能町に一校でした。この年四月、豊岡実業は県立昇格を果しました。入学早々職員室へ入室する場合ドアを開け、「一年A組豊岡太郎、○○先生に用事があつて参りました。」



北海道援農隊(昭和19年)

週一回の全校一斉の校庭集会、校長先生の講話、続いて五年生の週番生徒が指揮台に上がる。校歌斉唱である。一段のバン

私は昭和十九年に豊岡実業学校に入学し、戦後の学制改革で昭和二十三年に私たち五年生が新制高校二年生に編入され

(旧制五年でも卒業でき約半数が卒業した)、二

十四年度豊岡実業高校二期生として卒業しました。

高校二年生のとき、学校側より「生徒会」なるものを創るよう私に要請があり、先生の指導のも

峰遠く・と大声で唱和。

これは学校当局が生徒達を身につけて、将来、社会の中堅人物たらしめんとの指導理念であつたの

でしよう。(昭20実卒)総会も開かれ、予算や規約が承認された。

六十年も前のことで記憶も定かでないが、戦中

・戦後と語り尽くせない体験があり、激動の六年間であった。

(昭25高卒)

「豊高の思い出」

木下 博

私が豊岡実業学校に入学したのは昭和二十年四月、日本が太平洋戦争で敗色濃厚となつた時と重なる。入学後、戦争教育を受けながら農業実習に汗を流し、初対面の友とも友情の芽生えを感じる

カラ声でAIN、ツバ、ドライ「靈峰遠く消えゆ

きて」続いて全生徒で靈峰遠く・と大声で唱和。

これは学校当局が生徒達

に拳措礼節を重んじ矜持

を身につけて、将来、社会の中堅人物たらしめんとの指導理念であつたの

でしよう。(昭20実卒)

総会も開かれ、予算や規約が承認された。

六十年も前のことで記憶も定かでないが、戦中

・戦後と語り尽くせない体験があり、激動の六年間であった。

(昭25高卒)

「生徒会の発足」

河野一夫

私は昭和十九年に豊岡実業学校に入学し、戦後の学制改革で昭和二十三年に私たち五年生が新制高校二年生に編入され

(旧制五年でも卒業でき約半数が卒業した)、二

十四年度豊岡実業高校二期生として卒業しました。

高校二年生のとき、学

校側より「生徒会」なる

ものを創るよう私に要請

があり、先生の指導のも

とに組織や規約を考え、原案を作った。翌年より

学校の東側、住宅団地頃、終戦となつた。

学校農場で、ヒマワリが咲き誇っていたように思

う。

「豊高の思い出」

齊藤政雄

筆無精の私に標記のテ

ーマで執筆をという依頼

がありました。豊高三年

間では、多くの思い出は

あります。限られた時



ヒマワリ畠

（昭20実卒）

（昭25高卒）

（昭26高卒）

（昭29高卒）

（昭30高卒）

（昭31高卒）

（昭32高卒）

（昭33高卒）

（昭34高卒）

（昭35高卒）

（昭36高卒）

（昭37高卒）

（昭38高卒）

（昭39高卒）

（昭40高卒）

（昭41高卒）

（昭42高卒）

（昭43高卒）

（昭44高卒）

（昭45高卒）

（昭46高卒）

（昭47高卒）

（昭48高卒）

（昭49高卒）

（昭50高卒）

（昭51高卒）

（昭52高卒）

（昭53高卒）

（昭54高卒）

（昭55高卒）

（昭56高卒）

（昭57高卒）

（昭58高卒）

（昭59高卒）

（昭60高卒）

（昭61高卒）

（昭62高卒）

（昭63高卒）

（昭64高卒）

（昭65高卒）

（昭66高卒）

（昭67高卒）

（昭68高卒）

（昭69高卒）

（昭70高卒）

（昭71高卒）

（昭72高卒）

（昭73高卒）

（昭74高卒）

（昭75高卒）

（昭76高卒）

（昭77高卒）

（昭78高卒）

（昭79高卒）

（昭80高卒）

（昭81高卒）

（昭82高卒）

（昭83高卒）

（昭84高卒）

（昭85高卒）

（昭86高卒）

（昭87高卒）

（昭88高卒）

（昭89高卒）

（昭90高卒）

（昭91高卒）

（昭92高卒）

（昭93高卒）

（昭94高卒）

（昭95高卒）

（昭96高卒）

（昭97高卒）

（昭98高卒）

（昭99高卒）

（昭100高卒）

（昭101高卒）

（昭102高卒）

（昭103高卒）

（昭104高卒）

（昭105高卒）

（昭106高卒）

（昭107高卒）

（昭108高卒）

（昭109高卒）

（昭110高卒）

（昭111高卒）

（昭112高卒）

（昭113高卒）

（昭114高卒）

（昭115高卒）

（昭116高卒）

（昭117高卒）

（昭118高卒）

（昭119高卒）

（昭120高卒）

（昭121高卒）

（昭122高卒）

（昭123高卒）

（昭124高卒）

（昭125高卒）

（昭126高卒）

（昭127高卒）

（昭128高卒）

（昭129高卒）

（昭130高卒）

（昭131高卒）

（昭132高卒）

（昭133高卒）

（昭134高卒）

（昭135高卒）

（昭136高卒）

（昭137高卒）

（昭138高卒）

（昭139高卒）

（昭140高卒）

（昭141高卒）

（昭142高卒）

（昭143高卒）

（昭144高卒）

（昭145高卒）

（昭146高卒）

（昭147高卒）

（昭148高卒）

（昭149高卒）

（昭150高卒）

（昭151高卒）

（昭152高卒）

（昭153高卒）

（昭154高卒）

（昭155高卒）

（昭156高卒）

（昭157高卒）

（昭158高卒）

（昭159高卒）

（昭160高卒）

（昭161高卒）

（昭162高卒）

（昭163高卒）

（昭164高卒）

（昭165高卒）

（昭166高卒）

（昭167高卒）

（昭168高卒）

（昭169高卒）

（昭170高卒）

（昭171高卒）

（昭172高卒）

（昭173高卒）

（昭174高卒）

（昭175高卒）

（昭176高卒）

（昭177高卒）

（昭178高卒）

（昭179高卒）

（昭180高卒）

（昭181高卒）

（昭182高卒）

（昭183高卒）

（昭184高卒）

（昭185高卒）

（昭186高卒）

（昭187高卒）

（昭188高卒）

（昭189高卒）

（昭190高卒）

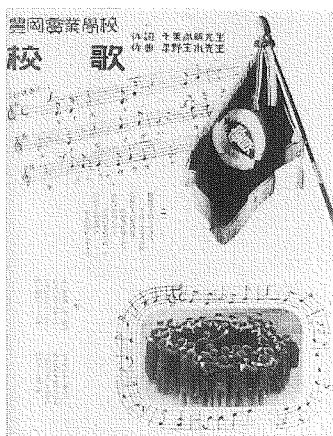
（昭191高卒）

（昭192高卒）

「朝日新聞」

枝窪義雄

生を迎えて対面する儀式の場面、入学の祝詞を申し述べ、校歌の一節の「出藍の誉胸に湧く」の意味を解説し披露した（あおはこれをおいよりとりて、あいよりもあおし）私は新入生に解説を行いこの一節の大きさを再認識し、感激、感動した。柔道部、練習に励み多くの汗を畳に吸い込ませた。先輩は強かつた、県下高校新人戦で優勝し、豊高柔道部の名を県下に



かな充足
感はひと
しおのも
の。お花畠、高山植物、
雲海、等々思い出される。
卒業後銀行に就職、先
輩十数名が在籍されてお
り、歓迎会を開催して下
さった。その会は三豊会
といい退職後の現在も継
続開催されており、懐か
しく豊高を語り合つてい

園もあり、製茶実習、水田当番、畜舎当番、養蚕宿泊当番など授業前や放課後の仕事もありました。豊高の大きな特徴は農商兼修であり、商業一般、珠算、簿記等を履修した私は私のものの見方、考え方方に大きな影響を与えました。

校庭茶研側のところに集
合」という先輩からの声
であつた。一年の二百余
名とともにシブシブ出席。
そこでは応援団の指導
の下、校歌「靈峰遠く消
えゆきて・・・」、第一応
援歌「豊沃無比の武藏野
に・・」、第二応援歌「靈
峰富士の峰高く・・」の

「悪友との出会い」

村野志朗



應援風景

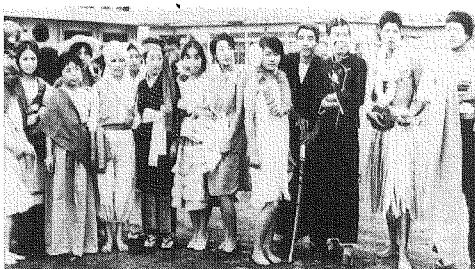
轟かせた。私も各種大会に選手として参加したがあまり強い選手ではなかつた。良き仲間に恵まれ、

る。そしてお開きの際は必ず豊高校歌が合唱され
る。 （昭32高卒）

夕陽うつる入間川に靈峰富士のシルエットは今も変わらず、「出藍の誉」を目標に人生意気に生き抜いてきた私に母校豊高はいつの時でも、心のふるさとのです。

あれから五十年、クラブ会で、母校の野球の応援で校歌を歌うたび私はあの青春に戻れる、応援団の先輩ありがとう。

校風は『質実剛健』みんな突っ張っていた。学校生活は、よく遊び・よく遊び・少し勉強するといつた生活であった。が、体育祭・文化祭等の学校行事には、皆な目の色を変えて燃えた。体育祭の特色は、大きな学級のシンボルの制作と全校生徒による仮装行列であつた。



仮装大会(昭和42年)

木造校舎で学び始めたのは、昭和四十二年四月のことである。私にとつて三年生はものすごく大きな存在であり大人に見えた。質実剛健の校訓どおり、先輩達は厳しく、屋上で校歌、応援歌指導は中学時代の甘えた気分を一瞬に搔き消した。

次にクラブの勧誘があり小学生から習っていたので迷わず剣道部に入部した。それからの学校生活は剣道漬けだった。朝練習から始まり、放課後の稽古、夏の合宿、寒稽古、

稽古、冬の合宿、春の合宿、遅くまで制作し、生徒間の絆が深まつた。叱咤激励しあつた友や

校風は『質実剛健』みんな突っ張っていた。学校生活は、よく遊び・よく遊び・少し勉強するといつた生活であった。が、体育祭・文化祭等の学校行事には、皆な目の色を変えて燃えた。体育祭の特色は、大きな学級のシンボルの制作と全校生徒による仮装行列であつた。

個性豊かな先生との出会い、人生九十年をともに旅する懇友に出会えた。たくさんの事を学んだ三年間であった。

(昭40高卒)

「豊高の思い出」

長谷部 安

木造校舎で学び始めたのは、昭和四十二年四月のことである。私にとつて三年生はものすごく大きな存在であり大人に見えた。質実剛健の校訓どおり、先輩達は厳しく、

屋上で校歌、応援歌指導は中学時代の甘えた気分を一瞬に搔き消した。次にクラブの勧誘があり小学生から習っていたので迷わず剣道部に入部した。それからの学校生活は剣道漬けだった。朝練習から始まり、放課後の稽古、夏の合宿、寒稽古、

時代はまだ精神主義が色濃く残っていた。三年間打ち込んだ剣道で三段を取得した時は最高の喜びであった。今も恩師、先輩や後輩に感謝している。

(昭45高卒)

「豊高の思い出」

和田 浩

この度埼玉県立豊岡高等学校が創立九周年を迎えること、心よりお喜び申し上げますと共に、本校の発展に尽くされました教職員各位はじめ

お会いできること、幾ら年を重ねても至極の宝として蘇って参ります。今この宝を祝辞と致します。

(昭46高卒)

「豊高の思い出」

和田 浩

この度埼玉県立豊岡高等学校が創立九周年を迎えること、心よりお喜び申し上げますと共に、本校の発展に尽くされました教職員各位はじめ

お会いできること、幾ら年を重ねても至極の宝として蘇って参ります。今この宝を祝辞と致します。

(昭46高卒)

「豊高の思い出」

比留間嘉章

さて、こうしてペンをとると在校中の様々なことを想い出されます。友と勉強や人生や政治を語り合つたこと。又、野球

温い水を慌てて飲み込んだ。もちろん顔を洗うふ



通学風景(昭和45年)

る。

毎年顔を合わせる先輩がいる。監督とは三十年以上の付き合いになる。不思議なことに笑つて語り合えるのは苦しかった思い出ばかりだ。

(昭51高卒)

平成20年度 同窓会決算報告

自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

1 普通預金の部

収入合計額 支出合計額 残額(翌年度へ繰越)
 6,072,729円 - 340,541円 = 5,732,188円

(収入) (単位:円)		
科 目	金 額	摘 要
1 会 費	909,000	3,000円×303名(21年3月卒業生)
2 雑 入	6,313	預金利子
3 繰越金	5,157,416	前年度から繰り越し
合 計	6,072,729	

(支出) (単位:円)		
科 目	金 額	摘 要
1 会議費	193,436	常任理事会経費等
2 慶弔費	0	
3 事務費	48,745	郵券、写真額その他代
4 卒業生費	98,360	卒業証書ケース代
5 激励費	0	
6 講師謝礼費	0	
7 積立金	0	
合 計	340,541	

2 定額預金の部

収入合計額 支出合計額 残額(翌年度へ繰越)
 18,898,750円 - 0円 = 18,898,750円

(収入) (単位:円)		
科 目	金 額	摘 要
1 繰越金	18,845,891	前年度より繰り越し
2 預金利子	52,859	預金利子
合 計	18,898,750	

(支出) (単位:円)		
科 目	金 額	摘 要
合 計	0	

上記のとおり平成20年度の決算報告をいたします。

平成21年 6月24日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 会長 木下 博
 上記会計を監査した結果、正確にして相違ないものと認めます。

平成21年 6月15日

埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 斎藤 政雄
 埼玉県立豊岡高等学校同窓会 監事 長谷部 安



新体育館

平成20年度 同窓会事業報告

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 | 常任理事会 平成20年6月23日(月) |
| <協議事項> | |
| ア | 平成19年度決算報告 |
| イ | 平成19年度監査報告 |
| ウ | 常任理事承認について |
| エ | 体育館立替に伴う備品寄贈について |
| 2 | 臨時常任理事会 平成21年1月28日(水) |
| <協議事項>体育館立替に伴う備品寄贈について | |
| <報告事項>豊岡高等学校の改革について | |
| 3 | 同窓会入会式 平成21年3月6日(金) |
| 4 | 卒業生303名に卒業証書ケース贈呈 |
| 5 | 第61回卒業式出席 平成21年3月7日(土) |

平成21年度 同窓会役員

役 職	氏 名	卒 年
会 長	木下 博	昭26高
副 会 長	仲川 幸成	昭35高
副 会 長	大野 満	昭41高
監 事	斎藤 政雄	昭29高
監 事	長谷部 安	昭45高
会 計	河村 正幸	昭42高
常 任 理 事	山下 富美雄	昭11実
常 任 理 事	橋本 邦男	昭16実
常 任 理 事	中野 弘資	昭17実
常 任 理 事	市川 保一	昭20実
常 任 理 事	小平 勇	昭20実
常 任 理 事	吉原 栄一	昭21実
常 任 理 事	河野 一夫	昭25高
常 任 理 事	横田 芳男	昭27高
常 任 理 事	枝塙 義雄	昭32高
常 任 理 事	石川 秀夫	昭34高
常 任 理 事	大野 竹司	昭37高
常 任 理 事	足立 宏	昭40高
常 任 理 事	久保 増枝	昭42高
常 任 理 事	西澤 昇	昭43高
常 任 理 事	町田 多可雄	昭43高
常 任 理 事	鹿倉 孝	昭44高
常 任 理 事	辻 泰江	昭46高
常 任 理 事	高山 雅男	昭47高
常 任 理 事	大野 清恵	昭49高
常 任 理 事	野口 晴康	昭49高
常 任 理 事	高原 誠子	昭50高
常 任 理 事	木口 勝巳	昭51高
常 任 理 事	小林 守利	昭54高
常 任 理 事	橋本 浩	昭54高

埼玉県立豊岡高等学校同窓会会則

第1章 総 则

第1条 本会は埼玉県立豊岡高等学校同窓会を称する

する

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展と社会文化の向上に貢献することを目的とする

する

第3条 本会は事務所を豊岡高等学校内に置く

第2章 会 員

第4条 本会は母校卒業生で組織する。但し、1年

以上在学した者を会員になることが出来る

第5条 本会は顧問及び答員を置く

する

1. 顧問は常任理事会で推薦する

2. 答員は母校現職員及び旧職員とする

第3章 役 員

第6条 本会は次の役員を置く

1. 会長 1名

2. 副会長 若干名

3. 常任理事

若千名

4. 理 事

若千名

5. 監 事

若千名

第7条 役員の選出は次の方法による

第11条 総会は毎年一回開くことを原則とし、本

会の事業及び庶務・会計の報告(その他の

大正九年（一九二〇年）に学校組合立豊岡農業学校として開校し、平成二十一年には九十周年を迎えます。それを記念し、ここに同窓会報を発行することになりました。

さて、同窓会では卒業生の皆様の豊岡高校に関する貴重な資料を提供頂きたくお願い申し上げます。写真や思い出話でも結構です。今後百周年にむかい資料収集してまいりたいと思います。どうぞ同窓会事務局宛お送りください。

なお、本年十一月には九十周年記念式典・祝賀会等を計画しております。また、このためにお力を貸していただける方も併せて募集しております。

今回、同窓会報を送付するにあたり、特に名簿の保存が完璧とはいかず、労を呈したところです。諸先輩の方々同窓会報郵送希望の方、また十一月の祝賀会等に出席を希望される方、事務局までご連絡くださいますようお願い上げます。

第12条 常任理事会・理事会は必要に応じ会長が選出する

重要事項を決議する。必要に応じ臨時総会を会長が召集・開催することができる。

資料収集並びに 式典協力者募集のお願い！

第13条 本会の各種会議の決議は出席者の多数決とする。

第14条 本会の経費は入会金、会費、寄附金その他を以て之にあてる

第15条 新入会員は入会金1,000円、終身会費2,000円を入会料納入する

第16条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日とする

第17条 本会はその目的を達成するために支部を設けることが出来る。その細則は支部に一任する

第18条 本会の会則に規定しない細則は常任理事会の決議で定める

第19条 本会に次の帳簿を備える

1. 会員名簿

2. 会計簿

3. 会議議事録

第20条 本会会則は昭和30年3月20日より施行する（中略）平成3年10月30日一部改正



事務局だより（同窓会事務局からのお知らせ）

やんちやなクースに タイムスリップ



Tea Time

昨年七月十一　加藤先生を筆頭に、男子十五名、女子五名の、合計二十一名は、顔を見合はせるや、あちらこちらで「誰?」「ああ!」と、お迎えし、三十数年ぶりに同窓会を開きました。

午後三時に正門前に集合。いつも私たちを励ましてくれた懐かしの「若草の像」の前で記念撮影。

イムスリップ。学年一の

加藤先生を筆頭に、男子十五名、女子五名の、合計二十一名は、顔を見合はせるや、あちらこちらで「誰?」「ああ!」と、お迎えし、三十数年ぶりに同窓会を開きました。

II 情報提供と寄稿のお願い

この度創刊の『出藍』は、豊高同窓生同士の交流や絆を深める会報としていると思っています。つきましては、皆様がお持ちの同窓会にかかる情報（卒業生の活躍）や、クラス・部活等「同窓会の開催予定や開催報告」等）を、また本誌購読希望の方を「存知でしたら左記までお知らせ下さい。併せて、本誌4頁から掲載の「豊高の思い出」や、「近況報告」、「文芸作品」、「その他」一般投稿を募集しております。是非左記まで応募下さい。

〒三五八一〇〇三 入間市豊岡一一五一

埼玉県立豊岡高等学校 同窓会会報編集委員会

TEL 〇四一九六二一五二一六 FAX 〇四一九六〇一〇五三
メールアドレス: f625216@pref.saitama.alg.jp

やんちやな面々が、豊高の庭に帰つて來たのです。

四時からは、『若竹』に席を移し、想い出話に、

旧交を温めました。気がつけば、一次会そして・

旧交を温めました。気がつけば、一次会そして・

● 本会常任理事・橋本邦男さん（昭16年12月卒）が、昨年7月9日(土)逝去されました。享年84歳

● 本会常任理事・齊藤政雄さん（昭29年3月卒）が、去る1月24日(土)逝去されました。享年73歳

● 本編集委の発足が昨年六月。爾来十月を経て、此處に『出藍』第一号が産声を上げました。これ

偏に、掲載し切れない程の原稿を寄せて下さった方々、大勢の関係同窓生、並びに豊高教職員皆様の支援・ご協力によるものと感謝申し上げます。

▼会報名『出藍』は、豊實・豊高とその同窓生誰もが、大声で歌つた校歌中の「出藍の誓」より撰んだものです。題字の選定・揮毫は、木下博同窓会長にお願いしました。

▼手探りの中での第一号発行となりました。委員不慣れの為、編集段階での無理なお願いや失礼もあつたことと存じます。また本号にも多々不備・不足もあるうかと存じます。ご容赦下さい。(あ)

計報

編輯後記